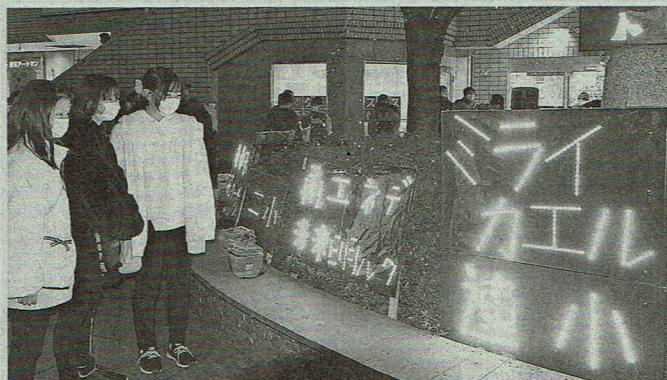


未来照らす再エネイルミ

多摩市立小学校5校の6年生が風力や太陽光発電などの再生可能エネルギーで充電し、その電力を使ったイルミネーションが10日夕、京王線聖蹟桜ヶ丘駅前などで点灯された。

多摩の児童が充電

同駅前であった点灯式には、市立多摩第一、多摩第二、連光寺、東寺方小の児童らが参加。桜の木の周辺で色とりどりのLEDが点滅し、「再エネデ 未来明ルク」など、各校の光のメッセージが登場した。瓜生小は近くの永山南



再生エネルギーの大切さを伝えるメッセージも点灯された(10日、聖蹟桜ヶ丘駅前)

公園でイルミネーションをもした。

児童たちは、総合学習の時間に発電機を手作りし、100円ショップで購入した単三の充電池に充電した。

割り箸などを使って水力発電に挑戦したという多摩第二

小の小岩井結佳さん(12)は「あまりうまく発電できなかったけど、光っているのを見られてうれしい。別の発電もやってみたい」と話していた。

聖蹟桜ヶ丘駅前では、17日までの午後5～8時半に点灯される予定。

地球に思いやり

玉川大(町田市)の学生たちが、「サステナブル(持続可能)」をテーマに廃材などを使ったウィンドーディスプレイを制作し、町田駅前の町田マルイで10日、展示が始まった。展示場所は、小田急とJRの町田駅をつなぐペDESTリアンデッキに面した同店2階のショーウィンドー2か所。「共創芸術プロジェクト」などを履修する1～4年生18人が、企画から制作まで一貫してかわり、同店や大学から出た廃材やプラスチックごみなどを活用して完成させた。

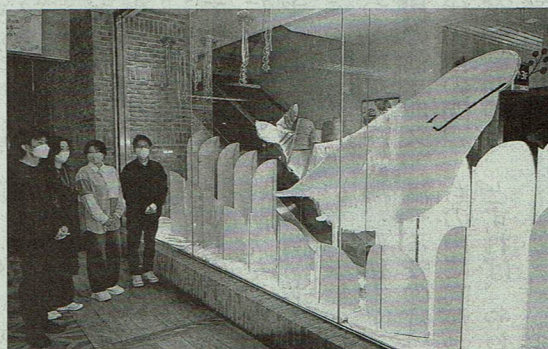
ペットボトルを積み上げたツリーや、海洋プラスチックから逃れて空を飛ぶクジラなどが表現され、色が変化するLEDライトに鮮やかに照らされている。

4年生の長島大貴さん(23)は「サステナブルをどう表現するかで、学生同士で様々な意見が出た。海にゴミを捨てないとか、自分も気をつけたい」と話していた。

展示は27日まで。

廃材活用 空飛ぶクジラ

玉川大生制作「サステナブル」表現



「サステナブル」をテーマにしたディスプレイと、制作した学生たち(町田市)

住宅解体開始 来月以降方針

調布陥没補修向け

東京外郭環状道路(外環道)のトンネル工事の影響で2020年10月、調布市の市道が陥没した問題を巡り、東日本高速道路は10日、補修に向けた周辺の住宅解体工事を来年1月以降に始める方針を明らかにした。全体の補修には来春から約2年を要する見込みという。

東日本高速道路による

年代別の新規感染者(人)	
10歳未満	1757
10歳代	1822
20歳代	2338
30歳代	2362
40歳代	2365
50歳代	1871
60歳代	929
70歳代	582
80歳代	391
90歳以上	141
不明	0
計	14558
1週間平均(前週比)	12644 (+7.8%)

都内の新型コロナウイルス感染状況(12月10日発表)

医療提供体制	
※()は前日の数値	
病床使用率	46.4% (↑45.8%)
入院中	3485人 (↑3436人)
重症者	15人 (→15人)
宿泊療養中	2814人 (↑2623人)

※速報値のため、その後の調査で増減することがある ※都は前日時点の数値を発表している

練馬の古屋さん 新聞検定で満点